

こおろぎのみみ

2年 せつめい文 13ばん

なまえ

秋になると、草むらからコロコロときれいな音が聞こえてきます。こおろぎの鳴き声です。

こおろぎは、口で鳴いているではありません。左右のはねをこすり合わせて、音を出しています。鳴くのは、おすだけです。

では、こおろぎはどこで音を聞くのでしょうか。じつは、こおろぎの耳は、前あしにあります。ひざの少し下にある、小さなまるいまくで聞いているのです。

おすは、鳴くのは、めすに自分のばしよを知らせるためです。めすは、前あしの耳でその音を聞き分けて、おすのところへ近づいていきます。



(1) 「聞き分けて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 音を聞いて、ほかの音とのちがいが分かって

イ 音を大きくして聞いて

ウ 音が聞こえないようにして

エ 音をまねして、同じ音を出して

(2) 文しように書いてあることに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こおろぎは、口をあけて鳴いている。

イ おすとめすが、いっしよに鳴いている。

ウ こおろぎの耳は、前あしにある。

エ こおろぎの鳴き声は、春によく聞こえる。

(3) こおろぎは、何をこすり合わせて音を出していますか。文しようにから五字で書きぬきましょう。

(4) おすのこおろぎが鳴くのは、何のためですか。書きましょう。

書き方のヒント

四つ目のだんらくのはじめの文を見てみよう。

「ため。」でおわらせる。

こおろぎのみみ

こたえ

2年 せつめい文 13ばん

なまえ

秋になると、草むらからコロコロときれいな音が聞こえてきます。こおろぎの鳴き声です。

こおろぎは、口で鳴いているわけではありません。左右のはねをこすり合わせて、音を出しています。鳴くのは、おすだけです。

では、こおろぎはどこで音を聞くのでしょうか。じつは、こおろぎの耳は、前あしにあります。ひざの少し下にある、小さなまるいまくで聞いているのです。

おすが鳴くのは、めすに自分のばしよを知らせるためです。めすは、前あしの耳でその音を聞き分けて、おすのところへ近づいていきます。



(1) 「聞き分けて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 音を聞いて、ほかの音とのちがいが分かって

イ 音を大きくして聞いて

ウ 音が聞こえないようにして

エ 音をまねして、同じ音を出して

(2) 文しように書いてあることに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こおろぎは、口をあけて鳴いている。

イ おすとめすが、いっしよに鳴いている。

ウ こおろぎの耳は、前あしにある。

エ こおろぎの鳴き声は、春によく聞こえる。

(3) こおろぎは、何をこすり合わせて音を出していますか。文しようにから五字で書きぬきましょう。

左 右 の は ね

(4) おすのこおろぎが鳴くのは、何のためですか。書きましょう。

(れい)めすに自分のばしよを知らせるため。

書き方のヒント

四つ目のだんらくのはじめの文を見よう。

「くため。」でお知らせる。

解答・解説 こおろぎの みみ（2年・せつめい文）

もん 問1 ア

四つ目の だんらくに「めすは、^{まえ}前^{みみ}あしの 耳^{おと}で ^きその 音^わを 聞^きき分^わけて、おすの ところへ 近^{ちか}づいて いきます」と 書^かいて あります。「聞^きき分^わけて」は、音^{おと}を 聞^きいて、ほかの 音^{おと}との ちがいが 分^わかる ことです。だから、めすは おすの ところへ 行^いけるのです。

もん 問2 ウ

三つ目の だんらくに「こおろぎの 耳^{みみ}は、^{まえ}前^{あき}あしに あります」と 書^かいて あります。二つ目の だんらくに「口^{くち}で 鳴^ないているのでは ありません」「鳴^なくのは、おすだけです」と あるので、アと イは ちがいます。一つ目の だんらくに「秋^{あき}に なると」と あるので、エも ちがいます。

もん 問3 さゆう 左右の はね

二つ目の だんらくに「^{さゆう}左右の はねを ^あこすり合^{おと}わせて、音^だを 出^かしています」と 書^かいて あります。

もん 問4 じぶん （れい）めすに 自^し分の ばしょを 知らせる ため。

四つ目の だんらくに「おすが 鳴^なくのは、めすに 自^{じぶん}分の ばしょを 知^しらせる ためです」と 書^かいて あります。めすに ばしょを 知^しらせる ことが 書^かけて いれば ○です。